

(1) 関係行政機関で実施するモニタリング項目(2016/7/29修正)

No.	モニタリング項目	評価指標	評価基準
1	衛星リモートセンシングによる水温・クロロフィルaの観測	水温、クロロフィルa	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているかどうか(基礎データとして他のモニタリング結果の評価にも活用)。
2	海洋観測ブイによる水温の定点観測	水温	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
3	アザラシの生息状況の調査	来遊頭数	アザラシの保護管理に重大な支障を生じさせないこと(絶滅のおそれを生じさせない)。
4	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)	生物相、生息密度、分布	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること。
5	浅海域における貝類定量調査	生息密度、種組成	おおよそ登録時(orベースデータのある時点)の生息状況・多様性が維持されていること。
6	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査	営巣数とコロニー数、特定コロニーにおける急激な変動の有無	おおよそ登録時の営巣数が維持されていること。
7	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁1ha圏内区内外)	稚樹・萌芽の発生頻度、枝下被度 下層植生の種数と種組成	稚樹・萌芽の密度、枝下被度; 1980年代の状態に回復すること。 下層植生: 1980年代の群落構造・機能に回復すること。
8	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(環境省知床岬圏内区内外)	ガンコウラン群落; ガンコウラン、シャジクソウ、ヒメエゾネギ等の植被率、個体数、繁殖個体数 高草草本群落; 群落構造・機能	ガンコウラン群落; 指標種等の植被率、個体数、繁殖個体数が1980年代の状態に回復すること。 高草草本群落; 群落構造・機能が1980年代の状態に回復すること。
9	密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査	採食圧 植生保護圏内外の植生現存量 高草草本群落の群落構造・機能(高さ・被度等)	採食圧; 調査開始時より採食圧が下回っていること。 植生現存量; 1980年代の状態に回復すること。 群落構造・機能; 1980年代の状態に回復すること。
10	エゾシカによる影響の把握に資する広域植生調査	森林植生: 稚樹・萌芽の発生密度、枝下被度、下層植生 高山・亜高山及び海岸植生; 出現種数、群落構造・機能、外来種の分布状況 登山道沿いの踏圧状況	森林植生: 1980年代の状態に回復すること。 高山・亜高山及び海岸植生; 1980年代の状態に回復すること。 登山道沿いの踏圧: 踏圧等により登山道の幅が広がっていないこと。
11	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査	分布域と密度	生育・分布状況の維持。 エゾシカによる採食がみられないこと。
12	エゾシカ越冬群の広域航空カウント調査	越冬群の個体数	主要越冬地の生息密度が5頭/km ² (1980年代初頭水準)以下となること。
13	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)	昆虫相、生息密度、分布、外来種の分布状況	多様性の低下が生じないこと。 (基準とする時期は過去の資料から検討して今後確定する) セイヨウオオマルハナバチ以外の特定外来生物が発見されないこと。
14	陸生鳥類生息状況調査	鳥類相、生息密度、分布、外来種の分布状況	多様性の低下が生じないこと。 (基準とする時期は過去の資料から検討して今後確定する)
15	哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)	哺乳類相、生息密度、分布、外来種の分布状況	多様性の低下が生じないこと。 (基準とする時期は過去の資料から検討して今後確定する) アライグマが発見されないこと。
16	広域植生図の作成	植物群落の状況、高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の変動	人為的变化を起さぬこと。 高層湿原、森林限界及びハイマツ帯の分布が変化していないこと。
17	河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング	遡上数、産卵床数、河川工物の湖上及び産卵への影響	各河川にサケ類が遡上し、持続的に再生産していること。 河川工物による遡上障害が実行可能な範囲で回避されていること。
18	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)	オシロコマの生息数、外来種の生息状況、水温	資源量が維持されていること。外来種は、根絶、生息情報の最少化。夏季の水温が長期的にみて上昇しないこと。
19	利用実態調査	利用者数、利用方法、利用者特性	各利用拠点の特性に応じた適正な利用となっていること。
20	ヒグマの目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査	出没及び被害発生数、ウトロ・羅臼市街地に出没又は出没の恐れのあるヒグマの駆除数。	参考資料(基準なし)
21	気象観測	気温、降水量、日射量、積雪深	長期的に見たときの変動幅を逸脱しているかどうか(基礎データとして他のモニタリング結果の評価にも活用)。
22	海ワシ類の越冬個体数の調査	海ワシ類の越冬個体数	おおよそ登録時の生息状況が維持されていること。
23	シマフクロウのつがい数、標識幼鳥数、死亡・傷病個体と原因調査	つがい数、繁殖成功率(標識幼鳥数など)	つがい数: 遡産登録時の数がおよそ維持されていること。 繁殖成功率(繁殖成功つがい数/確認つがい数): 遡産登録時の繁殖成功率がおよそ維持されていること。
24	年次報告書作成による事業実施状況の把握	関係機関、各種団体による事業実施状況	参考資料(基準なし)
25	年次報告書作成等による社会環境の把握	人口、産業別就業者数	参考資料(基準なし)

(2) 地元自治体、関係団体、専門家、その他の行政機関等に協力を依頼するモニタリング項目

No.	モニタリング項目	評価指標	評価基準
①	航空機、人工衛星等による海水分布状況観測	海水の分布状況	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
②	アイスルジーの生物学的調査	海水で覆われた時期の海水内での基礎生産生物量の把握	※データの蓄積がほとんど無いため、現時点で評価基準の設定は困難。 動物プランクトン量も把握しておくこと、低次の食物連鎖が推定できる。
③	「北海道水産現勢」からの漁獲量変動の把握	漁獲量を調査	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
④	スケトウダラの資源状態の把握と評価(TAC設定に係る調査)	資源水準・動向	おおよそ登録時の資源状態を下回らないこと。
⑤	スケトウダラ産卵量調査	卵分布量	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
⑥	トドの日本沿岸への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性	来遊頭数	基準なし(自然環境等の変動を把握し、様々な施策の検討の際の基礎的な情報を収集するためのモニタリング)
⑦	トドの被害実態調査	被害実態	※基礎的な統計資料であることから、具体的な数値目標を設定することは困難。
⑧	オジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング	つがい数、繁殖成功率、生産力(つがい当たり巣立ち幼鳥数)	おおよそ登録時のつがい数、繁殖成功率、生産力が維持されていること。
⑨	全道での海ワシ類の越冬個体数の調査	海ワシ類の越冬環境収容力	参考資料(基準なし)
⑩	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析	表面海水及び海底堆積部の石油、PCB、重金属等の汚染物質濃度	基準値以下の濃度であること。
⑪	エゾシカの主要越冬地における地上カウント調査(哺乳類の生息状況調査を含む)	単位距離あたりの発見頭数または指標	生息密度指数が1980年代初頭のレベルかどうか。
⑫	エゾシカの間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査	間引き個体、自然死個体などの生物学的特性	